

2026年5月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年10月10日

上場会社名 SUMINOE株式会社 上場取引所 東
 コード番号 3501 URL https://suminoe.co.jp/
 代表者（役職名）取締役社長（氏名）永田 鉄平
 問合せ先責任者（役職名）執行役員経営企画室部長（氏名）水野 明秀（TEL）06-6251-6803
 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無 : 無
 決算説明会開催の有無 : 無

（百万円未満切捨て）

1. 2026年5月期第1四半期の連結業績（2025年6月1日～2025年8月31日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年5月期第1四半期	25,465	3.7	318	285.8	533	—	59	—
2025年5月期第1四半期	24,567	2.7	82	△81.8	△139	—	△462	—

（注）包括利益 2026年5月期第1四半期 457百万円（—％） 2025年5月期第1四半期 △15百万円（—％）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年5月期第1四半期	4.48	—
2025年5月期第1四半期	△34.21	—

※当社は2025年3月1日を効力発生日として普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施したため、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益を算定しております。

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年5月期第1四半期	97,684	37,202	31.9
2025年5月期	94,976	37,163	32.8

（参考）自己資本 2026年5月期第1四半期 31,152百万円 2025年5月期 31,181百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年5月期	—	40.00	—	20.00	—
2026年5月期	—	—	—	—	—
2026年5月期（予想）	—	21.50	—	21.50	43.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

※当社は2025年3月1日を効力発生日として普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施したため、2025年5月期の1株当たり期末配当金及び2026年5月期（予想）の1株当たり配当金につきましては、当該株式分割の影響を考慮した金額を記載し、2025年5月期の年間配当金合計は「—」として記載しております。株式分割を考慮しない場合の2025年5月期の期末配当金は40円00銭、年間配当金は80円00銭となります。

3. 2026年5月期の連結業績予想（2025年6月1日～2026年5月31日）

（％表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期（累計）	51,460	1.5	670	△9.7	910	103.6	100	52.1	7.55
通期	105,000	0.2	3,100	3.3	3,350	33.2	1,500	123.9	113.25

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 有

新規 一社(社名) - 、除外 1社(社名) 蘇州住江織物有限公司

※詳細は、添付資料11ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)」をご覧ください。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2026年5月期1Q	15,364,324株	2025年5月期	15,364,324株
2026年5月期1Q	2,119,664株	2025年5月期	2,119,604株
2026年5月期1Q	13,244,685株	2025年5月期1Q	13,510,510株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※当社は2025年3月1日を効力発生日として普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施したため、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、期末発行済株式数、期末自己株式数及び期中平均株式数を算定しております。

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、不確定な要素を含んでおります。実際の業績は、今後の様々な要因によって予測値と異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	P. 2
(1) 当四半期連結累計期間の経営成績の概況	P. 2
(2) 当四半期連結累計期間の財政状態の概況	P. 6
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	P. 6
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	P. 7
(1) 四半期連結貸借対照表	P. 7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	P. 9
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	P. 9
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	P. 10
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	P. 11
(継続企業の前提に関する注記)	P. 11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	P. 11
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)	P. 11
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	P. 11
(セグメント情報)	P. 12

1. 経営成績等の概況

（1）当四半期連結累計期間の経営成績の概況

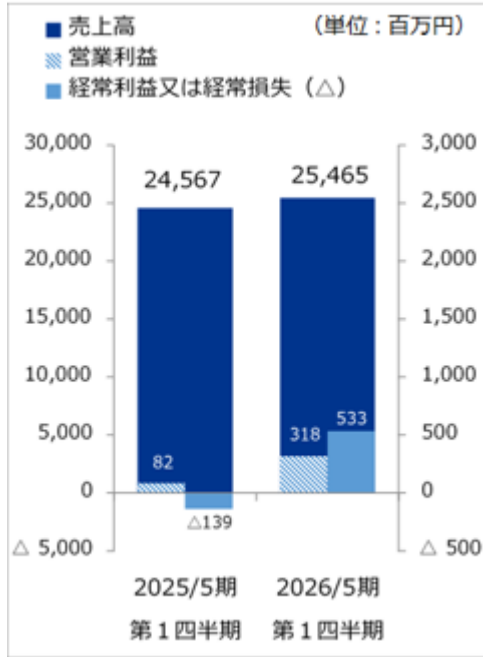
当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善やインバウンド需要の拡大を背景に、景気は回復基調を維持しました。一方で、不安定な国際情勢のなか、通商政策をはじめとする米国政権の動向や地政学的リスクの継続などにより、世界経済の先行きは依然として不透明な状況が続いております。

当社グループ事業に関連のあるインテリア業界において、国内の新設住宅着工戸数は前年同期比11.7%減、非住宅分野では着工床面積が同16.6%減となりました。また、自動車業界において、国内の日系自動車メーカーの生産台数は前年同期比1.1%減となり、海外においても減少しました。

当社グループは、中長期経営目標「SUMINOE GROUP WAY 2022～2024～2027」の後半3ヵ年「STEP II（2025～2027）」の方針の下、実力の底上げを確実に進める期間と位置づけ、各種施策を推進しております。

当第1四半期連結累計期間は、自動車・車両内装事業の自動車関連では、量産を開始したメキシコ合成皮革工場において、顧客のニーズに対応する高品質な製品を安定的に供給するための体制構築に引き続き注力いたしました。また、これまで機能資材事業で扱う繊維系暖房商材の主生産拠点であったベトナム工場で、自動車向けカーペット及びカーマットの量産稼働を推進するなど、ベトナム工場の採算性向上と自動車内装材の世界最適供給体制の強化に取り組んでおります。車両関連では、製販一体となって開発・生産体制の維持向上を図ることで、鉄道・バス事業者の利用客数増加に伴う需要に着実に対応いたしました。インテリア事業においては、中級ゾーンのオーダーラグシリーズ「Epilogue（エピローグ）」を投入し、すでに展開している高級ゾーンの「itten（イッテン）」、最高級ゾーンの「REI（レイ）」とあわせて、中高級ゾーンに対応する付加価値型製品群のラインナップ拡充による顧客への訴求力向上を図るとともに、新たな販路へ展開する施策を実施し、さらなるSUMINOEブランドの認知向上に取り組みました。機能資材事業では、近年の季節動向を鑑みて、春夏向け家電関連商材を上市いたしました。就寝時に使用する冷感マットなど、今後新たな主力製品としての成長を見込んでおります。

当第1四半期における連結業績は、以下のとおりとなりました。

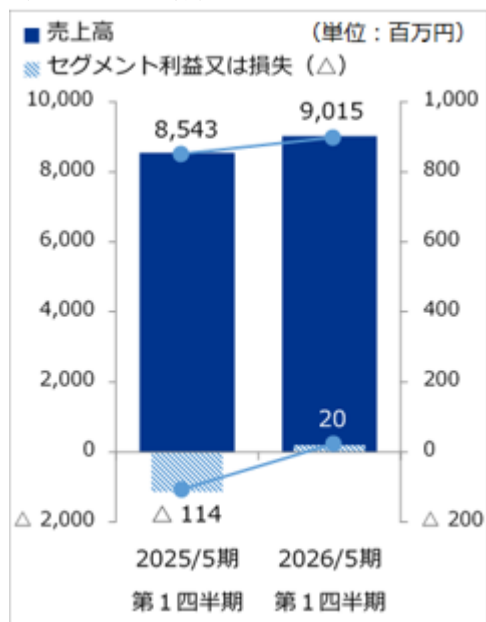


売上高は、自動車・車両内装事業において、鉄道・バス向けとともに回復傾向が続く需要に的確に対応するとともに、インテリア事業では、「空間」全体をデザインするスペース デザインビジネスが大きく伸長したことから、前年同期比3.7%増の254億65百万円となりました。営業利益は、原材料・エネルギー価格の高止まりを踏まえた価格改定効果などにより、同285.8%増の3億18百万円となりました。また、営業外損益として前年同期に計上した為替差損が為替差益に転じたことなどにより、経常利益は5億33百万円（前年同期 経常損失1億39百万円）、親会社株主に帰属する四半期純利益は59百万円（同 親会社株主に帰属する四半期純損失4億62百万円）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

セグメント	売上高		セグメント利益又は損失 (△)	
	金額 (百万円)	前年同期比 (%)	金額 (百万円)	前年同期比 (%)
インテリア事業	9,015	+5.5	20	—
自動車・車両内装事業	15,874	+3.3	820	+7.2
機能資材事業	486	△14.4	△11	—
その他	90	+4.6	21	+90.5
小計	25,465	+3.7	850	+35.9
調整額	—	—	△532	—
合計	25,465	+3.7	318	+285.8

(インテリア事業)



業務用カーペットはタイルカーペットを中心に納入物件数が増加したほか、「空間」全体をデザインするスペース デザインビジネスが大きく伸長し、売上高は前年同期比5.5%増の90億15百万円となりました。また、原材料・エネルギー価格の高止まりを踏まえ前期に実施したタイルカーペットや壁紙の価格改定効果などにより、セグメント利益は20百万円（前年同期 セグメント損失1億14百万円）となりました。

業務用カーペットでは、水平循環型リサイクルタイルカーペット「ECOS®（エコス）」の、資源を未来へつなげるというブランド価値訴求の継続により納入物件数が増加し、売上高は前年同期比0.4%増となりました。

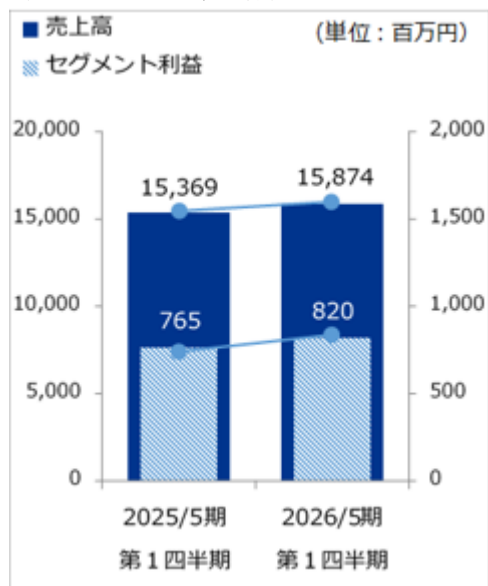
家庭用カーペットでは、中高級ゾーンに対応するラグマットなどの新たな販路開拓や他社との差別化を目指す販売戦略の見直しに注力するものの、市況低迷による販売競争の激化などにより、売上高は同11.7%減となりました。

カーテンでは、一般家庭向け「U Life（ユーライフ）カーテンVol. 11」の販売が伸長したものの、2025年7月に新発売した一般家庭向け「mode S（モードエス）カーテンVol. 11」が改廃時期の重なりにより減少し、売上高は同8.5%減となりました。

壁装関連では、壁紙の価格改定や防犯対策需要によるウインドフィルムの販売貢献により、売上高は同8.6%増となりました。

スペース デザイン ビジネスでは、複数の大型商業施設向けの内装やタワーマンションへのオプション販売などの堅調な受注により、売上高は同32.6%増となりました。

(自動車・車両内装事業)

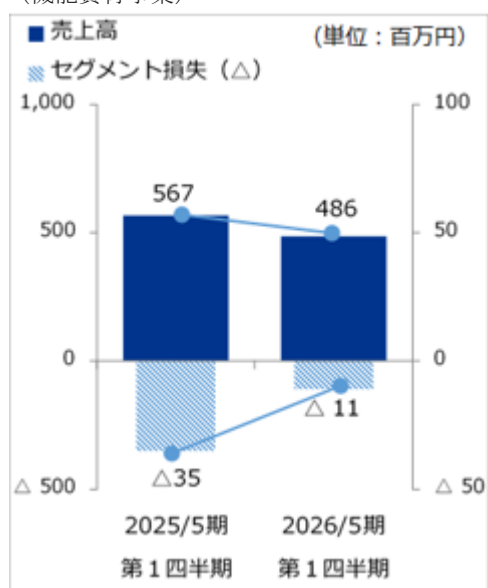


自動車関連では、カーマットの堅調な受注や、前期に立ち上がったフロアカーペットが売上に寄与しました。また、当社グループ間での連携で着実に鉄道やバスの生産回復需要を取り込んだことにより、自動車・車両内装事業全体の売上高は前年同期比3.3%増の158億74百万円、セグメント利益は同7.2%増の8億20百万円となりました。

自動車関連では、当社グループ受注車種の生産台数が堅調に推移したことにより、国内の売上高は前年同期比4.7%増となりました。海外では、為替による減収影響に加え、中国拠点においては、日系自動車メーカーの生産縮小が大きく影響しました。一方、北中米拠点では、販促活動が奏功しカーマットやフロアカーペットの販売が堅調となり、東南アジア拠点においては、各国の社会情勢による日系自動車メーカーの販売台数が低迷しているなか、受注商材の売上が寄与したことにより、海外の売上高は同1.1%増となりました。

車両関連では、顧客ニーズに柔軟に対応できる体制で、鉄道リニューアル工事の受注増加に対応したことから、鉄道向けの売上高は前年同期を上回りました。バス向け内装材においても、路線バスや高速バスに続き、インバウンドの増加により回復する観光バスの需要も着実に取り込んだことから堅調に推移し、車両関連全体での売上高は前年同期を上回りました。

(機能資材事業)



主力製品であるホットカーペットなどの家電関連商材は、近年の暖冬に起因する得意先の在庫調整の影響が継続しているものの、新たな春夏向けアイテムの立ち上がりにより売上は前年同期を上回りました。一方、浴室床材は、市況低迷及び主要得意先の生産体制変更による一部モデルの転注により出荷数が減少したことから、売上は前年同期を下回りました。消臭・フィルター関連は、自動開閉式ゴミ箱向けのフィルターは堅調に推移しましたが、冷蔵庫向けフィルターの出荷数減少により、売上は前年同期を下回りました。以上のことから、機能資材事業全体の売上高は前年同期比14.4%減の4億86百万円となりました。利益面では、採算性向上を目的としたベトナム工場の生産体制再編により、セグメント損失は11百万円（前年同期 セグメント損失35百万円）となりました。

（2）当四半期連結累計期間の財政状態の概況

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、現金及び預金の増加等により、前連結会計年度末に比べ27億7百万円増加し、976億84百万円となりました。

負債につきましては、借入金の増加等により、前連結会計年度末に比べ26億68百万円増加し、604億81百万円となりました。

純資産につきましては、その他有価証券評価差額金の増加等により、前連結会計年度末に比べ39百万円増加し、372億2百万円となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第2四半期連結累計期間及び通期の業績予想に関しましては、2025年7月11日に発表しました連結業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年5月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,847	12,239
受取手形、売掛金及び契約資産	15,976	15,089
電子記録債権	9,423	8,962
商品及び製品	9,962	9,795
仕掛品	2,568	2,689
原材料及び貯蔵品	4,565	4,848
その他	3,648	3,557
貸倒引当金	△61	△60
流動資産合計	54,931	57,123
固定資産		
有形固定資産		
土地	15,669	15,647
その他（純額）	15,706	15,961
有形固定資産合計	31,376	31,608
無形固定資産		
無形固定資産	1,605	1,537
投資その他の資産		
繰延税金資産	1,173	960
その他	6,027	6,592
貸倒引当金	△136	△138
投資その他の資産合計	7,064	7,414
固定資産合計	40,045	40,561
資産合計	94,976	97,684

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年5月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年8月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	10,678	10,635
電子記録債務	10,940	10,180
短期借入金	13,995	17,420
1年内償還予定の社債	1,000	1,000
未払法人税等	761	285
その他	5,229	5,096
流動負債合計	42,606	44,617
固定負債		
長期借入金	5,929	6,191
繰延税金負債	342	350
役員退職慰労引当金	44	46
退職給付に係る負債	3,713	3,678
その他	5,176	5,596
固定負債合計	15,206	15,863
負債合計	57,813	60,481
純資産の部		
株主資本		
資本金	9,554	9,554
資本剰余金	2,388	2,388
利益剰余金	12,358	12,152
自己株式	△2,976	△2,976
株主資本合計	21,324	21,119
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,341	1,722
繰延ヘッジ損益	△7	9
土地再評価差額金	6,192	6,192
為替換算調整勘定	2,316	2,092
退職給付に係る調整累計額	13	16
その他の包括利益累計額合計	9,856	10,033
非支配株主持分	5,981	6,050
純資産合計	37,163	37,202
負債純資産合計	94,976	97,684

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2024年6月1日 至2024年8月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自2025年6月1日 至2025年8月31日)
売上高	24,567	25,465
売上原価	19,596	20,270
売上総利益	4,971	5,195
販売費及び一般管理費	4,888	4,876
営業利益	82	318
営業外収益		
受取利息	9	11
受取配当金	29	20
為替差益	—	167
不動産賃貸料	102	67
その他	101	97
営業外収益合計	242	364
営業外費用		
支払利息	84	113
持分法による投資損失	0	0
為替差損	326	—
不動産賃貸費用	15	8
その他	38	27
営業外費用合計	464	149
経常利益又は経常損失(△)	△139	533
特別利益		
固定資産売却益	15	1
関係会社清算益	—	17
特別利益合計	15	19
特別損失		
固定資産除売却損	6	3
特別損失合計	6	3
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△130	549
法人税、住民税及び事業税	165	244
法人税等調整額	26	52
法人税等合計	192	296
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△322	253
非支配株主に帰属する四半期純利益	139	193
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△462	59

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年6月1日 至 2024年8月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年6月1日 至 2025年8月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△322	253
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△237	381
繰延ヘッジ損益	2	16
為替換算調整勘定	537	△195
退職給付に係る調整額	3	2
その他の包括利益合計	306	204
四半期包括利益	△15	457
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△191	235
非支配株主に係る四半期包括利益	175	222

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第1四半期連結会計期間において、蘇州住江織物有限公司の清算が終了したことにより、連結の範囲から除外しております。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年6月1日 至 2024年8月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年6月1日 至 2025年8月31日)
減価償却費	581百万円	596百万円

(セグメント情報)

I 前第1四半期連結累計期間(自 2024年6月1日 至 2024年8月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	インテリア 事業	自動車・ 車両内装 事業	機能資材 事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	8,543	15,369	567	24,481	86	24,567	—	24,567
セグメント間の内部 売上高又は振替高	201	3	25	229	33	263	△263	—
計	8,745	15,372	593	24,710	119	24,830	△263	24,567
セグメント利益 又は損失(△)	△114	765	△35	614	11	626	△543	82

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、物性・性能検査業等であります。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額△543百万円には、セグメント間取引消去8百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△552百万円が含まれております。

全社費用は、報告セグメントに帰属しない管理部門及び研究開発部門に係る費用等であります。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2025年6月1日 至 2025年8月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	インテリア 事業	自動車・ 車両内装 事業	機能資材 事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	9,015	15,874	486	25,375	90	25,465	—	25,465
セグメント間の内部 売上高又は振替高	201	1	24	227	42	270	△270	—
計	9,216	15,875	510	25,603	132	25,735	△270	25,465
セグメント利益 又は損失(△)	20	820	△11	829	21	850	△532	318

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、物性・性能検査業等であります。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額△532百万円には、セグメント間取引消去1百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△533百万円が含まれております。

全社費用は、報告セグメントに帰属しない管理部門及び研究開発部門に係る費用等であります。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。